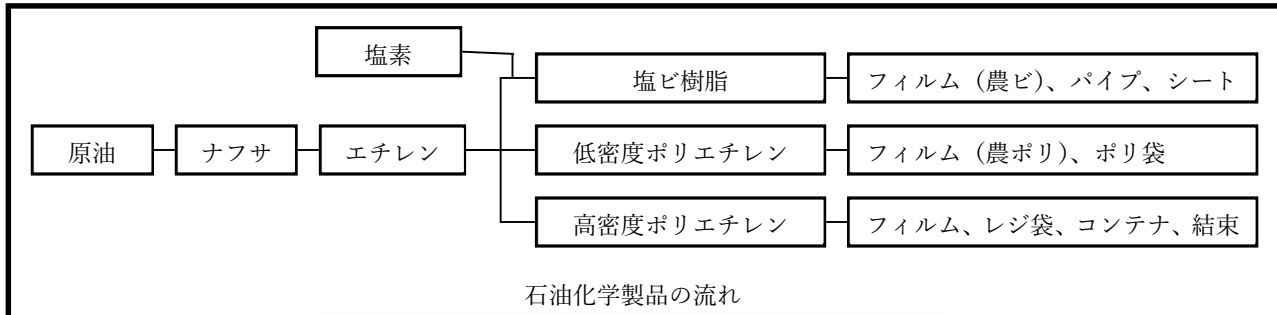


農業資材情勢

1 被覆資材



参考資料

- ・農業資材通信
- ・日本経済新聞

(1) 原油価格

原油価格の世界的指標であるWTI原油価格につきましては、令和2年1月に60ドル/バレル超まで上昇しましたが、新型コロナウイルス感染拡大による需要減少の影響などから、令和2年4月には一時マイナス価格を記録するなど大きく下落しました。

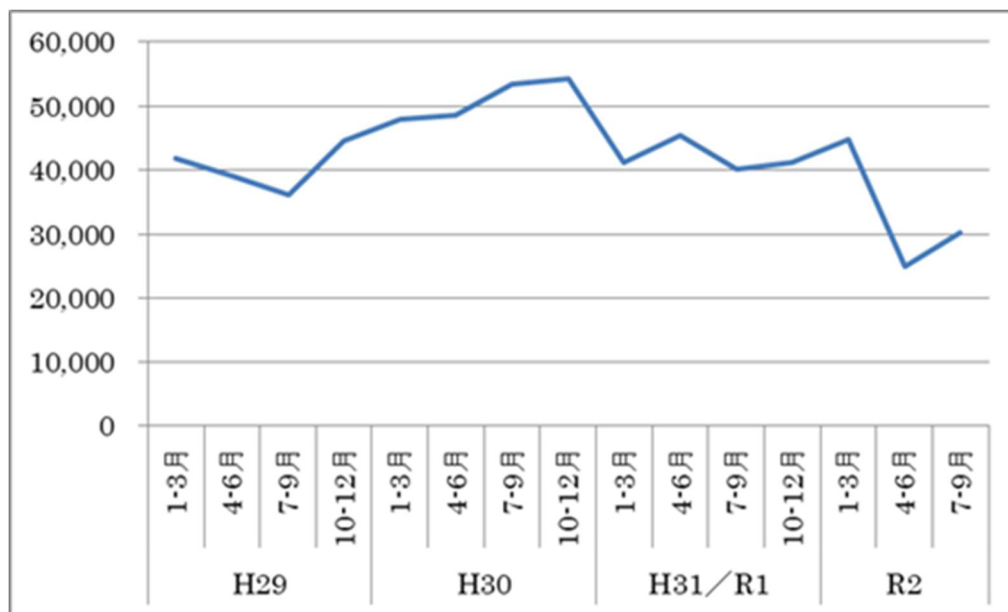
その後、世界各国の経済活動再開に伴い上昇に転じ、令和2年11月は40～45ドル/バレル程度で推移しましたが、今後の動向は非常に不透明なものとなっています。

(2) ナフサ価格

石油化学製品の基礎原料となる国産ナフサ価格につきましては、原油価格の上昇に伴い令和元年7～9月期以降は3期連続で値上がりし、令和2年1月～3月期は44,800円/KLとなりました。

その後、新型コロナウイルス影響などから原油価格が下落に転じたため、令和2年4月～6月期は25,000円/KLと大きく値下がりしました。しかしながら、令和2年4月以降は原油価格が上昇に転じており、令和2年7月～9月期は30,200円/KLとなるなど再度値上がりしています。

【国産ナフサ価格推移】



単位：円/KL

(3) 塩ビ樹脂・低密度ポリエチレン樹脂価格動向

ア. 塩ビ樹脂

農業用ビニールの主原料である塩ビ樹脂価格につきましては、近年のナフサ価格上昇などに伴い高止まりしていましたが、令和2年4月～6月期のナフサ価格下落を受けて、令和2年7月以降はやや値下がりした模様です。

イ. 低密度ポリエチレン樹脂

農P0フィルムおよび農業用ポリエチレンフィルムの主原料である低密度ポリエチレン樹脂価格につきましては、近年のナフサ価格上昇に伴い高止まりしていましたが、令和2年4月～6月期のナフサ価格下落を受けて、令和2年7月以降は値下がりした模様です。しかしながら、原料メーカー各社はナフサ価格が再度上昇していることなどを理由に、令和2年10月出荷分からの値上げを発表しています。

(4) 農ビ・農P0・農ポリ価格動向

ア. 農ビ出荷量

農ビの令和2年4月～9月の全国の出荷量につきましては、24,517千m（前年比85%）と前年を下回っています。北海道の出荷量につきましては、808千m（前年比70%）と前年を下回っています。

【4月～9月農ビ地区別出荷実績(単位:千m)】【年度別全国農ビ出荷実績推移(単位:千m)】

地区	R1	R2	前年比
北海道	1,156	808	70%
東北	759	784	103%
関東	7,168	5,520	77%
中部	2,312	2,070	90%
関西	5,392	4,950	92%
九州	11,925	10,385	87%
合計	28,712	24,517	85%

出荷量		前年比
H27	78,688	92%
H28	78,003	99%
H29	76,475	98%
H30	70,663	92%
R1	62,456	88%
R2	24,517	39%

※R2は4月～9月実績

イ. 農P0・農ポリ出荷量

農P0の令和2年4月～9月の全国の出荷量につきましては、9,639トン（前年比90%）と前年を下回っています。北海道の出荷量につきましては、351トン（前年比58%）と前年を下回っています。

農ポリにつきましては、業界団体による発表は行われていませんが、全国で年間約3.6万トン前後の出荷量と推定されています。

【4～9月農P0地区別出荷実績(単位:t)】【年度別全国農P0出荷実績推移(単位:t)】

地区	R1	R2	前年比
北海道	608	351	58%
東北	670	625	93%
関東	2,775	2,453	88%
中部	925	747	81%
関西	2,240	1,948	87%
九州	3,452	3,515	102%
合計	10,670	9,639	90%

出荷量		前年比
H27	23,356	96%
H28	24,087	103%
H29	23,687	98%
H30	25,610	108%
R1	23,417	91%
R2	9,639	41%

※R2は4月～9月実績

2 農業用パイプ情勢

(1) 鉄鋼原材料価格動向

ア. 鉄鉱石

鉄鋼製品の主原料である鉄鉱石価格につきましては、主産地・オーストラリアにおけるサイクロン発生の影響などから、平成31年以降は値上がり傾向にあります。

令和2年1～3月期は前期比約19%の値下げとなりましたが、中国での需要増加などから同4～6月期は前期比約5%値上げ、同7～9月期は前期比約4%値上げ、同10～12月期は前期比約23%値上げとなっています。

イ. 石炭

鉄鋼製品のもう一つの主原料である石炭価格につきましては、米中貿易摩擦の長期化による需要減少への懸念があったことなどから、平成31年以降は値下がり傾向にあります。

輸入の抑制を続けていた中国が調達を再開したことなどから、令和2年1～3月期は前期比約4%値上げとなりましたが、その後は主要国での需要減少などから、同4～6月期は前期比約7%値下げ、同7～9月期は前期比約19%値下げとなっています。

ウ. 鋼板価格

農業用パイプの主な原材料である鋼板価格につきましては、近年需要が堅調であったことなどから高止まりしています。令和2年に入り、新型コロナウイルス影響に伴う需要の減少から製造メーカーが減産を進めた一方で、直近では自動車向けの需要回復などから需給が引き締まっており、価格についても引き続き強含みで推移しています。

以上